

文学と歴史の舞台 江戸・東京を歩く

山形大学地域教育文化学部の前身、山形師範学校の卒業生である藤沢周平氏や山形県川西町出身の井上ひさし氏などの時代小説・歴史小説の主要な舞台となった江戸の面影残る東京で、町歩きと落語口演、対談を実施します。

平成29年3月3日(金) 10時～16時30分

※時間は参加方法によって異なります。
(詳細は裏面をご覧ください。)

第一部 上野・根岸・谷中町歩き ～ 文学の舞台を探訪 ～

山本 陽史(やまもと はるふみ)教授をナビゲーターに江戸時代に出羽三山が属した寛永寺や明治に芭蕉の後を慕って山形を旅した正岡子規の旧居子規庵のある根岸、広大な霊園のある谷中を歩き、多くの文学作品に取り上げられた江戸と明治期東京の名残を探訪します。(歩行距離約2km) **※荒天時にはコース変更、中止にする場合があります**

○開催時間 10時～11時45分(A班)／13時～14時45分(B班)

○予定コース 東京国立博物館～両大師(寛永寺開山堂)～根岸(子規庵など)～寛永寺坂～谷中霊園(徳川慶喜の墓など)～下町風俗資料館付設展示場(旧吉田屋酒店)～不忍池周辺～上野公園～東京国立博物館

町歩きは多数のお申込みが予想されるため2班に分けて実施します。午前の班の方は自由時間に美術館博物館めぐりなどはいかがでしょうか。スケジュールの詳細は裏面をご覧ください。

第二部 桂 伸治師匠 落語口演・対談「生きている江戸」

○開催時間 15時～16時30分 ○会場 東京国立博物館



桂 伸治
(かつら しんじ)
東京都生まれ

1974年 4月 二代目桂伸治に入門
前座名は桂平治
1979年 4月 平治のまま二ツ目昇進
1989年 4月 真打ち昇進
同時に三代目桂伸治を襲名



山本 陽史
(やまもと はるふみ)
和歌山県生まれ

山形大学 教授(基盤教育担当)
専門は日本文学
近世日本文学者
小説家藤沢周平の研究者



<交通案内>

- ・JR上野駅公園口、または鶯谷駅南口下車 徒歩10分
- ・東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅、千代田線根津駅下車 徒歩15分
- ・京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩15分
- ・台東区循環バス「東西めぐりん」で上野駅・上野公園バス停から乗車し、1つ目のバス停が東京国立博物館前(2分)



- 共 催: 東京国立博物館
 - 募集定員: 第一部 A班、B班 各40名
第二部 150名 先着順
 - 参加費: 500円(保険料等)
(第一部参加者のみ当日現金でいただきます。
第二部のみ参加の場合は無料。)
- ※お申し込み方法は、裏面申込書をご覧ください。

2/1(水)受付開始!

お問い合わせ
山形大学総務部総務課広報室
電話:023-628-4008 FAX:023-628-4013
E-mail:koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

会場(東京国立博物館)へのお問い合わせはご遠慮ください。

〈申込先〉 山形大学総務部総務課広報室

FAX : 023-628-4013 E-mail : koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

「文学と歴史の舞台 江戸・東京を歩く」申込書

お申し込みの際は、以下に必要事項をご記入の上、ファックスをお送りいただくか、以下の情報を入力してE-mailをお送りください。

なお、受付開始は**平成29年2月1日（水）午前10時**です。それ**以前**のお申し込みは**無効**となりますのでご注意ください。

ふりがな お名前 (生年月日)		(年 月 日生)	性別 男・女	
ご住所		〒 - -		
連絡先電話番号		ご自宅： - - 携帯電話： - -		
Eメール		@		
備考				
第一希望	第二希望	参加希望コースについて第二希望まで左の欄に○を記入してください		
		10:00~11:45	13:00~14:45	15:00~16:30
		町歩きA	第一部 町歩き (自由行動)	第二部 落語口演・対談
		町歩きB	第一部 町歩き	第二部 落語口演・対談
		二部のみ		第二部 落語口演・対談

※ A又はBのどちらかが定員に達した場合は、定員の空きのあるほうへ割り振らせていただきます。一緒にお申し込みの方がいらっしゃる場合は、備考欄にお名前を記入ください。同じ班に割り振ります。

(お申し込みは、お一人ずつお願いします。)

※ Eメールに携帯電話のアドレスを記載された方は、koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jpからのメールを受信できるように設定しておいてください。

※ 今回記載していただいた個人情報は、この催しに関する事務処理のみに使用いたします。

※ 町歩きは、安全な道・場所を引率者が配慮の上ご案内いたしますが、参加は自己の責任でお願いいたします。

(仮に自己の責任に基づく事故・怪我があった場合、主催者側は責任を負いかねます。)